

市民俳歌柳壇

応募方法

1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。未発表作品に限りません。はがきに、作品・住所・氏名(ふりがな)・応募する壇名を書き、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。毎月20日締め切り。☎広報広聴課 ☎(632)2026

ゴミ袋の中でも威張る蟹の足

徳次郎町 鈴木 基市

選評 その昔、蟹の句は、川蟹は春、海蟹は冬とされてきたが、今は四六時中食膳にのぼるから季節感はなくなくなった。だが依然高級食材である。だから、虎ではないが、蟹はゴミになっても袋の中で甲羅や足を突っ張らせて自己主張しているのかも…。

廃校に置いてきぼりの金次郎

西川田南2丁目 近 昌夫

S.Lの煙切れ切れに時雨空

上御田町 二木 捷

お勝手の話は内緒嫁姑

峰町 岡田 俊光

日向ぼこ隣の犬も呼びこまれ

西3丁目 江部 政司

大掃除埋蔵金の話など

西原2丁目 沼部 保代

押しボタン一人勿体なく渡る

西川田南1丁目 笹沼 秀臣

大吉の神籤に騒ぐ女坂

一番町 石田武二郎

定年を知らない猫に起される

東横田町 中村 俊一

雪の下はもう春の色ふきのとう

上金井町 斉藤 公子

ジュニア柳壇

ぼかぼかこねこがいるねあたたかい

緑小 神山 千尋

スキーはねすべってころんで雪まみれ

宇都宮大学附属小 鈴木細恵子

咲いてきた少しずつでも春の花

横川西小 浜本 乙葉

生協に注文春と寒卵

星が丘1丁目 上野 和子

豆剣土寒丸の水を飲んでいる

岩曽町 毛利 主税

定年の友が蕎麦打つ道の駅

宮の内4丁目 深沢 くに

山茶花の垣根を曲がりポストまで

下戸祭2丁目 若度マチ子

冬日和口達者な児親ゆずり

鶴田町 加藤 里子

たまさかの旅への誘い日脚伸ぶ

下川俣町 西里満喜子

初詣すませまじめの顔ほどく

今泉町 木村 定男

仮橋を踏めばぐらりと寒の明け

双葉3丁目 宇梶 タケ

古代人食みし栃の実拾いたり

花房1丁目 藤牧 淑子

日向の鴨人参いろの脚そろへ

氷室町 湯沢 くに

ジュニア俳壇

コートかいスキップしたいかえりみち

緑が丘小 照内 淳和

たのしみだ2ねんせいだねたのしい

緑小 村上 知佳

七草は苦しいしもういやだ

新田小 塚田 良樹

ジュニア歌壇

さみしいよ楽しく遊んだ親友のさり

ゆく車に雪まいる

宇都宮大学附属小 金子健一郎

コート内たがいのミスをかばいつつ友

との絆確かなもの

清原中 野沢 遥花

先生がテスト直しを確認し緊張の

風吹く冬の教室

上戸祭小 金口詩穂里

放水の霧にかかれる虹キラリ出初を祝す城址の濠に

夕映に光る川面の水の畝山巢に
帰る一群の鳥

中岡本町 五味田ユリ子

一日もおろそかならず一枚の曆
の果に年は流れぬ

今泉町 小林 静

七草を届けてくれた兄の背は
亡き父親によく以て来たり

築瀬町 塚原 玲子

孫たちが柱で計る身長も年ごと
と増える線の多さよ

江曾島町 長谷川 昇

ああ母と通ひたるみち白い雲川
のせせらぎをぞんくわのみち

戸祭2丁目 林 佳子

寒椿寒風に耐へ、二輪ひとときは
赤く炎のごとし

氷室町 野沢はたる

たまにくるオウム返しの子三歳児た
ぢろぐわれを跳び越えてゆく

下栗町 大塚 榮子

広報に載りたる友の詠みしうたし
らべやさしく思ひあふるる

清住2丁目 角田 悦子

モ一沢山不況の嵐ふつ飛ばせ牛さ
んお願いあなたの年よ

滝谷町 床井 忠

歌壇

安野登美子 選

俳壇

橋本昭次 選

柳壇

荒井宗明 選

ジュニア俳歌柳壇、作品募集 春夏秋冬や学校・家庭での出来事など、身近なテーマで、俳句・短歌・川柳を作って応募してみませんか。対象 市内に在住か通学する小・中学生 応募方法 はがきに、作品・住所・氏名(ふりがな)・学校名・作品の種類(俳句、短歌、川柳)を書き、〒320-8540市役所広報広聴課へ。作品は、未発表のもので、1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。1枚のはがきに異なる種類の作品は書かないでください。毎月20日締め切り。☎広報広聴課 ☎(632)2028

おすすめスポット

私の

野口雨情の詩碑と旧居

皆さんの知らない「宇都宮」を紹介します。



鶴田町 山本 和俊さん



「あの町 この町
日が暮れる 日が暮れる」
これは、詩人野口雨情が宇都宮で作詩した「あの町この町」の冒頭の歌詞です。雨情は、病氣療養と併せ空襲による戦禍から逃れるために、昭和

19年1月、東京吉祥寺から、鶴田町羽黒山神社のある農家の離れに、家族とともに疎開してきました。ここが終の住み家となり、昭和20年1月に62歳の生涯を閉じました。建物は、大切に保存



されてあり、往時をしのぶことができず。平成17年に、国の登録有形文化財に登録され、地元では「雨情旧居」の愛称で親しまれています。旧居の脇には、雨情が愛用していた筆と硯を納めた「筆塚」もあります。詩碑は、雨情の没後、家族がこの家から転居する際、有志の人々により、昭和33年に建立されました。現在も鹿沼街道を隔てて、雨情が晩年を過ごした建物を見つめるようにたたずんでいます。野口雨情の詩は、「七つの子」「黄金虫」などの童謡や民謡として、今でも多くの人々に愛唱されています。宇都宮にゆかりのある詩人の業績をたたえ、誇りにしていきたいですね。

地域はひとつ みんなの自治会

みんなの力で
みんなのふるさとづくり
みやのもり自治会



みやのもり自治会
自治会長 井上 好昭さん

みやのもり自治会は新築のニュータウンで、今年5年目を迎えます。店や事務所、工場などがなく、昼間自宅に居る人が極端に少ないため、空き巣狙いなどに危機感を持ち、特に防犯活動に力を入れていきます。不審者情報の屋外掲示や、ごみ出し・散歩などちよつと出掛けるついでに全員がパトロール用の腕章を着用するなど、全会員が普段から高い意識を持って取り組んでいます。会全体や班ごとの親睦会など、毎月のように行われるイベントには、子どもから大人までほぼ全員が参加しています。特に夏祭りは、会員の両親や近隣住民を招待するため、自治会の人口以上の参加人数となっています。また、自治会について

の情報は、速やかに全員で共有することが大切なので、自治会独自の広報紙を随時発行しています。落とし物情報から祭りの実施要領などまで、多岐にわたる内容を掲載し、通算でもうすぐ200号になります。みやのもり自治会は、よそからの寄り合い所帯ですが、ここを「理想の場所」として自ら選んだ者同士の集団。みんなが制定した「私たちは力を合わせ、心のふれあう住みよいまちづくりを実現し、地域社会に貢献する」という「みやのもりまちづくり精神」を共有して、これからはみんなが「ふるさとづくり」に取り組んでいきたいですね。



1月に行われた賀正会

自治会活動に参加しましょう 自治会では、誰もが気持ちよく、楽しく暮らせるまち、安全に安心して生活できるまちを目指して、環境美化活動、親睦活動やあいさつ運動、防犯活動などにも取り組んでいます。皆さんも、自治会活動に参加してみたいはかがでしょうか。📞みんながまちづくり課 ☎(632)2900、市自治会連合会事務局 ☎(632)2289